

進学 Now!

石橋高校
進路指導部
保護者版 9月

2024. 9

0. はじめに

この夏は野球部の生徒達が、努力すれば夢は必ず実現できることを、身をもって教えてくれました。私自身も甲子園球場ではオレンジTシャツにミストタンクを背負い、アルプススタンド内を噴霧器を片手に持ちながら応援したことは、貴重な経験となりました。今後は全校生徒が、自分の夢を実現する番です。受験勉強や夏休みの学習が、計画通りに行えなかった生徒達も多いかとは思いますが、しかし、夏休みに貴重な経験が出来た石高生にとって、今後大切なことは、「焦る」ことではなく「集中する」ことだと思います。遠方の大学の先生達からも激励の言葉を多くいただくなど、石橋高校の知名度が全国区になったことも大きなチャンスです。各学年の目標に沿って、各自のなすべきことを実践して欲しいと考えています。保護者の皆様も今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

1. 3年生のこの時期

共通テストの願書が提出され、郵送に向けた最終チェックの作業に入りました。今後は**残された時間を考慮しながら**、生徒一人ひとりが自分の可能性を最大限に引き出す**努力の日々**となります。6月の学年部会でもお話しさせて頂いた通り、時間が経過すると心身共に苦しくなる時期にはなりますが、なんとと言っても大学受験の受験の最大の敵は、「焦る」「あきらめる」「決め付ける」です。受験生は口には出さなくても、保護者の皆様に日々感謝しています。「信じる」「見守る」「支える」ことを念頭に、側面から受験勉強に専念できる環境を整えて頂きますようお願いいたします。

10月は毎週のように模擬試験が実施されます。外部模擬試験の進研模試（マーク・記述）、全統模試（マーク・記述）が終了しますと、そのデータをもとに、大学ごとの合否判定が検索できるようになります。データが出そろうのは受験の約1ヶ月後になりますが、試験の成績や進路面など心配事がございましたら、遠慮なく担任までご相談ください。

今回特に強調しておきたいことは、「**本校生の成績の伸びは、最後まで続く**」という応援です。これまでの本校生の例を分析しますと、12月・1月・2月になって大きな伸びを見せる生徒も少なくありません。学力の伸びは「直線的」ではなく、「2次曲線的」に伸びていきます。努力が伴わない場合、疑心暗鬼になりがちですが、最終的な勝負は入試本番です。入試当日に学力のピークを持って行くことが何よりも大切です。進路目標達成に向け、最後まで辛抱強く励まして頂けると幸いです。

2. 2年生のこの時期

高校生活の半分が経過し、部活動でも学校生活でも中心的な役割を担う立場になってきました。進路についても、11月から模擬テストが**3教科型から5教科6科目型に変わり**、本格的に志望校を考える時期になります。普段の学習も国数英の3科目から、地歴と理科を加えてどこまでこなせるかが重要になる時期でもあります。その反面、忙しい生活に拍車がかかり、学習習慣が乱れがちな時期にもなりますので、ご家庭でもご指導のほどお願いします。

2学期末には、文理の変更はできませんが、受験したい大学によって「**国公立コース**」と「**私立コース**」のいずれかを選んでいただきます。この選択は3年次のクラス分けや授業内容に違いが出てきますので、大きな選択となります。ご家族でもお互いの進路について**譲れない条件**を出し合いながら、十分に話し合ってください。クラス編成は、私立クラス・国公立クラスという分け方ではなく、国公立大学志望者のみのクラスと混合クラスが予定されています。

コースを選択するには、学部学科の絞り込み作業を通して、「自分軸」を作ることが何よりも重要です。企業も大学名のみで採用する時代ではありません。**「所属大学よりも、どんな入試で入ったか？」**を重視する企業もあります。キャンパスの立地や華やかさに惑わされることなく、

教育環境を追究することが重要です。

2026共通テスト出願のオンライン化が発表されました。詳細は未定ですが、7月上旬からマイページの作成ができるなど、手続きの流れが例年より早まるかもしれません。10月の学年部会でも話題にさせていただきますが、ご家庭のネット環境の確認をお願いいたします。

3. 1年生のこの時期

入学して半年が近づき、高校生活に慣れてきたこととは思いますが、同時にこの時期は、3年間で最も実力の動く時期でもあります。今後も学校に軸足を置き、予習・授業・復習を絡めた黄金のサイクルを確立させることで、**望ましい学習習慣を身につける**ことが重要です。

2学期初めに返却された進研模試の結果を初めて見て、驚いている生徒も多いと思います。中学校での学習や試験の成績は、あくまでも中学生の段階のものであり、高校生のそれは全く別物です。模擬テストの結果をご覧になりながら、学習への取り組み状況をご確認ください。その際、単純に順位や点数のみに着目するのではなく、各科目の設問毎の状況等もご覧になりながら、ご家庭でも励ましの言葉をかけて頂ければ幸いです。

2年生からはクラスが**文型と理型に分かれ、類型毎に授業内容が大きく変化**します。大学受験は大学や学科毎に入試科目や配点が大きく異なるため、入念な下調べが必要です。得意な科目を中心に選んだり、苦手科目を避けた選択は、今後のミスマッチが起りやすくなります。重要なのは、学びたい学問を、就きたい職業や将来の夢から逆算して考える、賢い選択をすることです。多面的な検討は勿論必要ですが、**熱意があれば、適性は後からついてくるものです**。10月からコース選択説明会が始まりますが、文型は日本史と世界史の選択、理型は物理と生物の選択も含めて2回希望調査を行い、3学期初めに最終決定します。不明な点は遠慮なくおたずねください。

4. 目前に迫る2025年度入試に向けたポイント

2025年度入試が目前に迫り、様々な分析や検討が行われた結果がネット上を賑わせておりますので、確かな情報を十分に集めてご検討いただきたいと思います。また1・2年生の保護者の方々も、このような変化を肌で感じていただき、時間をかけてご検討いただきたいと思います。

① 2025年度を取り巻く環境と、進研6月マーク模試における志望動向

18歳人口は昨年度まで減少が続いていましたが、今年度は徐々に2.5%増加すると予想されています。しかし一昨年度以前と比べると依然低い水準で、25年度入試においても極端に競争率が上がることは考えにくいとされています。

近年、受験競争の緩和が進んだことで、難関大学へ「強気の志望」の傾向が見られましたが、6月進研模試の志望動向では、強気の志望に落ち着きが見られました。私立大学では逆に、入試難易度が高い大学ほど志望者が増加する傾向が見られ、特に、共通テスト方式の志望者の増加が顕著です。また、教科数の少ない公立大学も志望者数が増加しています。このことは、2025年度の共通テストが教科「情報」の導入や、試験時間の増加など、対策に負担がかかる国立大学志望者が不安を感じるようになり、負担の少ない私立大学や公立大学への志望変更を検討した結果ではないかと推測されます。これらのことは、国立大学志望者の多い本校生にとって、「情報」を含めた6教科を粘り強く取り組むことで、合格へのチャンスが広がることを意味します。

② 情報系学部の入学定員増加

社会におけるデジタル化・脱炭素化を牽引する、高度専門人材の育成を念頭に、情報系学部の入学定員を増加する大学が昨年度から相次いでいます。今年度は、筑波大、横浜国立大等で情報系学科の定員増となります。定員増となった大学は、どの入試方式で募集なのか入試要項で確認する必要がありますが、難易度の変化が予想され、今後の動向に注目する必要があります。

5. 結びに

毎回申し上げておりますが、温かく見守り支援していただける保護者の皆様のもと、適切な指導と情報提供ができる教員が協力していく体制を築くことが何よりも大切だと考えています。お子様の希望をできるだけ叶えられるよう、全力で支援してまいりたいと思います。今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

進路指導部